

6-10

主題 iPhone/iPad を利用した介護の実践

情報技術

副題 iPhone アプリ「介護マニュアル」の自社開発を例に

社会貢献

研究期間 9ヶ月

事業所 社会福祉法人 善光会

発表者：徳山 創（とくやま はじめ）

アドバイザー：

共同研究者：

電話 03-5735-8080

メール h.tokuyama@zenkoukai.jp

FAX 03-5735-8081

URL http://www.zenkoukai.jp/

今回発表の  
事業所や  
サービスの  
紹介

社会福祉法人善光会は、東京都大田区で複合福祉施設「サンタフェ ガーデン ヒルズ」（特別養護老人ホーム、障害者支援施設、介護老人保健施設）、認知症対応型グループホーム「フラクタルビレッジ」を運営しております。

## 《研究前の状況と課題》

「サンタフェ ガーデン ヒルズ」は、地下1階、地上10階建ての建物に3種類の異なる施設が存在する大規模な複合施設です。規模が大きいことで人材を効率的に配置することができる一方、施設毎、階毎に介護オペレーションが異なる、職員間でスキルの差が生じてしまう問題が発生しておりました。ご利用者を介助する職員のスキルの差によって、提供するサービスが著しく変わることは、ご利用者様に戸惑いが生じることからあってはならないことであり、また、業務効率を向上させ、ご利用者様とのコミュニケーションの時間を増やすためにも介護オペレーションを標準化し、職員に浸透させ、職員のスキルアップを実現する必要がありました。

## 《研究の目標と期待する成果》

複合施設であるがゆえに、全ての施設で同一のオペレーションを実施することは不可能です。しかし、ご利用者様に提供する基本的なサービスの部分では共通する部分が多いため、共通する部分を洗い出しマニュアルに落とし込むことを第一の目標としました。マニュアルを作成したことに満足し、実際の介護オペレーションに適用できずに、運用に至らないケースが一般的に多く発生しております。これを回避するため、職員がいつでもマニュアルを閲覧でき、組織に浸透できるようにシステム化することを第二の目標としました。

《具体的な取り組みの内容》

【取り組み1】マニュアル作成

マニュアル作成にあたり、まず何を基準にするのか施設長、リーダー職員、一般職員、専門職員と議論を重ねました。作成のポイントは、各施設、各階の良いところを集約し、全ての施設で一律に使用できるようにすることでした。

【取り組み2】iPhone アプリ化

マニュアルを定着化させるにあたり、300ページもあるマニュアルを常に手の届く範囲におくことは物理的に困難であったため、検索利便性も考慮して携帯端末での閲覧を試みました。

iPhone は、この数年人気があり職員の利用率も高い携帯端末でした。この端末で一つのアプリとして手軽にマニュアルを閲覧できるようにし、マニュアルに接する時間を増やすことで定着の一助となることを狙い、アプリ開発を行いました。

開発コストは Mac のコンピュータと開発ライセンスの 10,800 円、開発期間数カ月で Apple 社に申請、リリースすることができました。

施設内では iPad を利用して複数人でも見やすい環境を実現しました。

《取り組みの結果と評価》

【取り組み1】マニュアル

複合施設の全職員を対象に同一のマニュアルを用いたオペレーション研修を実施することができました。これにより、研修を個別実施していた過去に比べ、業務効率、サービスの質の面で大きな効果をあげることができました。

【取り組み2】iPhone アプリ

善光会で作成した「介護マニュアル」iPhone アプリを iPad にインストールし、施設内で閲覧できる様にしたことで、職員一人一人の探究心や向上心が芽生え、スキルの向上にも繋がりました。

また、アプリは世界各地から App Store を通じて数多くのダウンロードを頂き、善光会の中で利用するだけでなく、一般の方にも役に立つ内容があると好評を頂きました。

世界的に高齢化が問題となり、在宅介護、施設入居待ちされている方が多い現状に対する社会貢献の一つの方法ではないかと考えております。

《まとめと今後の展望》

介護オペレーションを標準化してマニュアル化、iPhone アプリとして全世界に配信しました。今後は、マニュアルのブラッシュアップを行うと共に、iPhone/iPad のような IT 機器をリハビリ、認知症予防等に直接利用する取り組みを行ってまいります。

《提案と発信》

日本は課題先進国と呼ばれ、世界各国から日本の介護に注目が集まっております。今回、iPhone という情報技術を利用したことにより世界に対して情報発信ができ、貢献することができました。日本国内だけで閉じるのではなく、世界に目を向けて福祉業界全体で様々な技術を利用して、貢献できる方法を模索していきませんか。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。